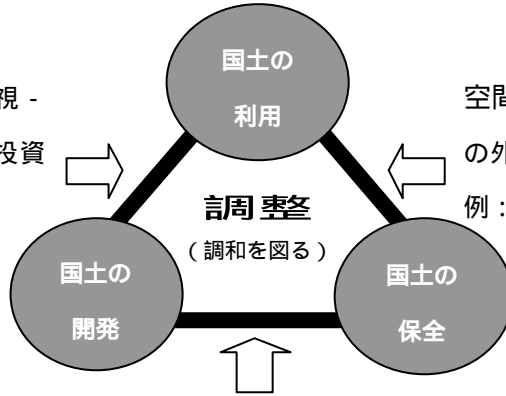


# 「国土の総合的管理」の意義について

目的間の調整：国土の利用、開発及び保全の空間調整

部門・地域間調整 - 効率性重視 -  
例： 大都市と地方との開発投資  
配分問題



空間・地域間調整 - 所有者と利用者の間の外部性をめぐる調整 -  
例： リサイクル、ゴミ問題

世代間調整 - 世代間の公平性重視 -  
例： 地球環境問題

そのためには

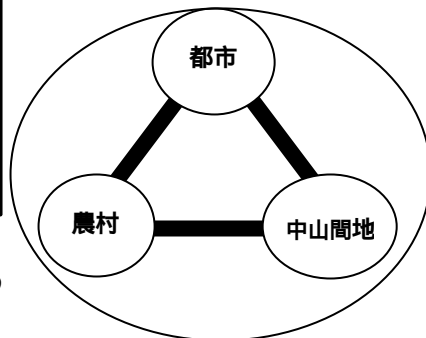
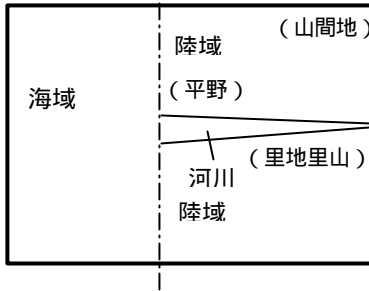
空間の総合化：空間調整範囲の拡大

時間の総合化：早期効果発現、持続性確保

異なる特性の空間を一体的に見る必要がある

圏域をより広域的に見る必要がある  
(地域構造の総合化)

時間的な概念（早期効果発現、持続性確保など）を考慮する必要がある



早期効果

持続性

事業の早期完成  
建設副産物の有効利用

20世紀中に世界の平均地上気温は0.6 上昇。さらなる温暖化により、食糧危機、生態系への悪影響、人体への悪影響、災害発生の拡大が懸念。

地球温暖化の要因である温室効果ガス (CO<sub>2</sub>等) の削減

例えば、国土の利用・保全間の調整として

森林の水源保全機能と利水の問題  
土砂の総合的管理  
ゴミ問題  
などが考えられる。

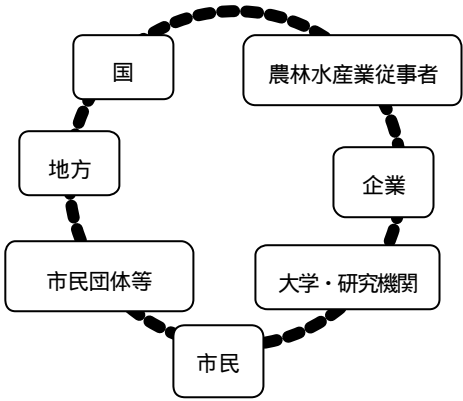
例えば、国土の開発・利用間の調整として、集積とネットワークを前提とした、  
立地・開発投資の調整  
水資源の部門間調整  
などが考えられる。

例えば、国土の開発・保全間の調整として、  
将来におけるさらなる温暖化防止のための温室効果ガスの削減  
などが考えられる。

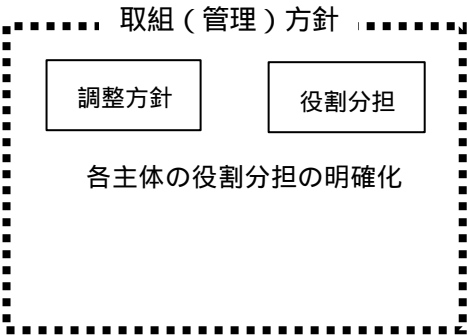
実践するには

取組の総合化：主体・方針・施策の連携

多様な主体の参加



方針の一体化



制度・事業の連携

